

A black and white illustration of an owl perched on a tree branch, reading an open book. The owl is facing left, and the book is open in front of it. The tree has a thick trunk and some leaves. A small insect is flying near the owl's head. The entire scene is enclosed in a rectangular frame.

[illegible]

家紋って何？

田中 豊茂

【家紋の起しりと広まり】

この公家から始まった印が「家紋」

【家紋は単純な文様ではない】

最も一般的なものとしては、名字の文字やそれに類似したもので、藤のつく姓の「藤紋」、橘氏流の「橘紋」

このように家紋は家の歴史を内包した印であり、日本の伝統的意匠の粹といえるものだ。しかし、「墓終い」といふことばに表されるように、昨今は伝統的な家というカタチが岐路に立っている。それは「家紋」の存在にも影響する社会事象であり、家紋も消えていく流れにあるのかもしれない。しかし、家紋は先祖より受け継がれてきた大切な家の印、次代に伝えてほしいと願う。

◆講演会を開催しました◆

(2020年10月31日)

身近な文様 家紋の

歴史と奥の深さを知る

□家紋 MONO・日本家紋研究会理事・田中豊茂氏の講演会を開催した。多数の参加者があり市民の関心の高さがうかがえた。出席者四十八名(会員九名 一般三十九名)。

参加者の感想

■初参加でした。とても良かったです。次回を楽しみにしています。

■実家の家紋はともえ(巴)、今は横もっこう(横木瓜)と知り、楽しい講座でした。

■大変興味深いご講義だった。久々に学生時代にもどった感じがした。初めて家紋の歴史を知ることができ、とても勉強になりました。

田中豊茂氏 関連著作

▼信濃中世武家伝

信濃武士の家紋と興亡(信濃毎日新聞社)

▼丹波篠山ロマン街道 戦国乱世の道マップ(丹波篠山市まちづくり部地域計画課景観室)

▼国指定史跡 八上城跡(郷土資料・禁帯出)



能楽入門講座を開催(4月4日)

「能への誘い」

講師 観世流能楽師 吉浪寿晃氏

四月十日開催の篠山春日能の演目「班女(はんじょ)」を題材に解説。コロナ禍のため二年ぶりの開催となり、先生のお話に自然と熱がこもっていききました。お話の中で、面白かったことは、狂言は台本がなく、先代や師匠の書きとったものを写し、覚えていくということでした。多少のアドリブはよく、大筋を間違えなければ構わないということだったので、そこに面白みが生まれてくるのではないかと思います。

また、いつもは謡の一節を全員で謡うのですが、今回は仕舞の型を扇を持って実演しました。班女の曲中「人の心も扇と同じ裏表があり」というところを、参加者が実際に扇を持って、扇の裏と表の型をしました。簡単そうに見えて、皆さんけっこう苦労しているようでした。やはり芸というのは、一朝一夕にできるものではないのだと思います。



このコロナ禍でも、良いものを見たい、聞きたいという渴望を感じますが、「班女」「鶺鴒」の見どころを聞いて、二年ぶりの春日能がますます楽しみなになりました。参加者25名。

2021年度総会のご案内

4月24日(土) 丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール

13時 会費納入受付 13時30分開始

1. 2020年度活動報告・決算報告
2. 2021年度活動計画(案)・予算(案)、質疑応答等
3. 『恵庭市における図書館運動について』
講師: 内藤和代氏の講演会 DVD を視聴します。

☆ 状況により予定が変更される可能性がありますので、ご了承ください。

■欠席される方は委任状を提出してください。
年会費は、郵便振込みにてご納入ください。
(口座番号 00900-5-11715・ささやま図書館友の会) 手数料はご負担下さい。

お知らせ

- 本の修理
毎月第2・第4金曜日
10時~12時(中央図書館創作活動室)
破損図書の修理をします。
作業の道具は用意しています。
希望者は直接会場にお越しください。

- 大人の本を読む会
4月15日(木) 10時~12時
(創作活動室)

『こんな夜更けにバナナかよ』

筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち
渡辺一史著 (北海道新聞社)
本について自由にトークしましょう。

他に最近読んだお薦めの本があれば1冊ご紹介ください。

* ささやま図書館友の会の活動は
ブログでご覧になれます!



令和2年度 第2回丹波篠山市 図書館協議会報告

11月26日、第2回図書館協議会が、
稲山教育部長、図書館長、職員2名
出席のもと開催されました。

令和3年度、丹波篠山市図書館事
業計画、予算要求の概要についての
説明、市民センター図書コーナーの
運営について、方針が示されました。

【協議事項】

1 市民センター図書コーナーの 運営体制について

(館長) 令和3年3月31日をもって
ブックサポーター制度を廃止し、4
月1日より図書コーナーに職員を2
名配置して運営する。中央図書館同
様に予約、リクエストの受付、レフ
アレンス等の図書館サービスを行う。
開館日は、従来通りとする。(*)

- ・ 新刊書選定時に複本を購入し、図
書コーナーに配架する。
- ・ 中央図書館の図書(児童書含む)
を図書コーナーに配架する。また、
配架資料を見直し、配架方法の検
討もする。

- ・ 利用者のニーズを把握し、新刊書
選定時に反映させる。また情報共
有を中央図書館と図書コーナーと

連携して行う。

- ・ 子育て支援コーナーの充実や職員
による「おはなし会」など行事を
企画、実施する。

- ・ 市民センター、市民プラザと連携
する。

- ・ 行事の開催や特集コーナー等の情
報発信をする。

【委員】図書館主体の運営になれば、
祝祭日の開館を望む。

(館長) 運営については、今後検討
していきます。利用状況をみて柔軟
に考えたい。

【委員】今後もブックサポーターが
参加できるように検討していただき
たい。

(館長) ブックサポーターが引き続
きボランティアとして参加できる方
法を検討したい。

2 配本所の利用促進と出張図書館 事業の実施について

(館長) 東部地区配本所の活性化に
重点を置き、出張図書館事業を継続
して実施する。

3 インターネットの活用、ICTを 利用したサービスの展開について

(館長) インターネットでの蔵書検
索やパスワードの利用等、活用方法
のPRを行う。

【委員】コロナ禍の中、在架予約は必
須ではないか。具体的に検討されて
いるか。

(館長) コロナ禍に関係なく必要な図
書館サービスと認識している。配本
所サービスや図書館システムの更新
など総合的に考えていきたい。

4 図書館ビジョンについて

(館長) 平成24年に策定された図書
館ビジョンの検証と見直しを行い、
令和4年度から10年先を見据えた
新たな施策を策定する。

(報告者 溝畑あけみ)

(*) その後の発表で、祝日開館にな
った。日曜・祝日開館時間は17時まで

令和2年度丹波篠山市子ども 読書活動推進連絡会報告

去る3月3日に子ども読書活動推
進連絡会が開かれた。(年1回開催)
今年は何の団体もコロナ禍というこ
とで、通常の活動が難しく、現場は
戸惑うことが多かった。小さい子ど
もたちへのおはなし会
なども自粛しているこ
ころもあり、絵本の貸
し出しなども減ってい
るということだ。中央



図書館などのように、話し手と子ど
もたちの間にビニールのカーテンな
どを使って飛沫を防ぎ、おはなし会
を開く工夫をしたらどうかなどの意
見がでた。子どもの成長は早いので、
このような状況でも絵本などを手渡
す努力をしてもらいたい。

また、学校で使う図鑑や調べ学習
の事典などが古くなっても、予算が
ないので更新することができないと
いうことだ。そういう本は定期的に
購入しなくては役に立たないので、
予算措置を教育委員会に求めていく
必要がある。

学校図書支援員については、小学
校も中学校も配置してもらい助かっ
ていると言っている。ただ中学校は
1か月に1回しか回ってこないの
で、回数を増やしてもらいたい。中学校
の図書室は給食の後の昼休みしか開
いていない。放課後はクラブ活動が
あり閉まっているのが現状だ。ボラ
ンティアなどを募り、図書室を開放
できないだろうか。クラブ活動に参
加していない生徒もいると思うので、
居場所づくりの意味でも、いつでも図
書室に行ける環境を作りたいものだ。

この連絡会を開くことで、参加者
が課題を共有し、連携や改善に繋が
っていいと考えている。

(報告者 中西文枝)

こどもの 本棚



『おちやのじかにきたとら』

ジュディス・カー 作

晴海耕平 訳（童話館出版）

ある日、ソフィーがおかあさんとおちやの時間にしようとしていたら、げんかんのベルがなりました。

ドアをあけるとそこにはおおきなけむくじやらのとらがいました。

「ぼくとてもおなかがついているんです。おちやのじかに、「こいっしょさせていただけませんか？」

とらはテーブルのうえにあるサンドイッチ、パン、牛乳をぜんぶ。まだまだ足りないので冷蔵庫の中のもの、お父さんのびーる・・・いえのなかにあるものぜんぶたべて帰っていききました。おとうさんが帰ってきても食べるものが何もありません。なんともおおらかな楽しい絵本です。

一方で、自伝ともいふべき著書『ヒトラーにぬすまれたものいろいろさ

ぎ』では、ヒトラーのユダヤ人排斥運動が始まる中を身の危険を感じ、家族4人が、密かにスイスに亡命し、さらにフランス、イギリスへと逃れていく様子を描いています。自身が過酷な逃亡生活を経験していることは、絵本の作者からは想像もできません。（Eケ）

（福山）

『おやすみ、はたらく』

くるまたち

シェリー・ダスキー・リンカー 文
トム・リヒテンヘルド 絵

福本友美子訳（ひさかたチャイルド）

工事現場で元気に働く車たちが、一日の仕事を終えて、寝る時間がきました。

「じーっ… おやすみ… ゆっくり おやすみ！」

重機がキャラクターになって登場します。クレーン車、ミキサー車、ブルドーザー、ショベルカー、ダンブカー。それぞれの車の役割や、エンジン音を切って、ゆっくりと眠りにつく様子がわかりやすく描かれています。イラストもとても素敵です。

「ニューヨークタイムズ」ベストセラーリスト第一位に輝いた、乗り物が大好きな子どもたちにぴったりの「おやすみなさい」の絵本です。また、色彩がはっきりしているの

で、幼稚園や学校の読み聞かせにも向いていると思います。

「はたらくくるまたち」シリーズには、他にも「おはよう、はたらくくるまたち」「はたらくくるまたちのかいたいこうじ」などがあります。

（Eリ）（木戸）



『クマゼミから温暖化を考える』

沼田英治 著

（岩波ジュニア新書）

60年前の里山にはミンミンゼミとヒグラシ、家の周りにはニイニイゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシだけだった。今はクマゼミの天下になっている。温暖化のせいと単純に思っていた。

著者によると、卵が冬を越せるような気温が必要なのはもちろんだが、蟬の一生の中でいちばん死亡率が高いのは卵が孵化して地下に潜るまでの期間で、この期間を生き抜くことができれば、成虫になって子孫を残せる確率が高いのだという。クマゼミの幼虫は固い地面に潜る能力が高く都市化に適応しやすいほか、温暖化によって孵化する時期が早まり梅雨に重なるようになって、孵化時期に雨天の日が増えたことが、クマゼミの増加につながったという。

何かに役立つと思うから研究するのではなく、知らないことがあるからそれを知りたいというのが科学者の態度であることも教えてくれる。

（YA486.5ス）（片山）

おとなの本棚



『水を縫う』

寺地はるな 著（集英社）

「男なのに」刺繍が好きな弟の清澄。「女なのに」かわいいものが苦手な姉の水青。「愛情豊かな母親」になれなかったさつ子。「まっとうな父親」になれなかった全と、その友人、黒田。「いいお嫁さん」になるよう育てられた祖母、文枝。男らしさ、女らしさ、父親らしさ、母親らしさ……そんな世の中の「普通」を踏み越えていく、6人の家族の物語。

とにかく、読後感が爽やかです。読みやすいです。でも色々気づかされます。

普通ってなんだろう？らしさって？ もっと単純でいいんだ。自分の「好き」を大切にしよう。苦手なことは無理しなくていい。出来る人が出来ることをやればいい。もがきながら進む清澄の真っ直ぐな姿に感動します。

もしあなたが、何だかモヤモヤし

たり、しんどいなと思っているなら読んでみて下さい。気持ちのいい本です！（Fテラ）（星宗）

『熱源』

川越宗一 著（文藝春秋）

滅びてよい文化などない。支配されるべき民族などない。明治維新後、樺太アイヌに何が起っていたのか。樺太アイヌの闘いと冒険を描く前代未聞の傑作巨編！

2020年度、一番心揺さぶられた本です。昨年『宝島』で沖縄を知ったように、この本でアイヌの歴史を知りました。母国語を禁止されることは文化を奪われること。否定されること。無かったことにされること。人として認められない!?そんなことがあっていいはずがない。

紛争を繰り返す外国の話ではありません。日本で行われていたことです。日本人である以上知る義務があります。この本を読んで、アイヌのことをもっと知りたいと思いました。フィクション小説ですが、小説だからこそ大切な事を多くの人に伝えられる。それを痛感した本です。

第162回直木賞受賞作。

（Fカワ）（星宗）

『天、共に在り』

アフガニスタン三十年の闘い

中村哲 著（NHK出版）

本書は「NHK知るを楽しむ この人 この世界」で放映された『アフガニスタン・命の水を求めて』の番組テキストをもとに大幅に加筆し、新たに再編集されたものです。

現地活動30年を振り返り、どうしてアフガニスタンで活動を始めたのか、その後どうして医療活動以上に井戸を掘り、用水路を拓くことに力を傾け始めたのか、そのいきさつを多くの写真、地図、図表を使って紹介、文字も大きくて読みやすいです。

私がアフガニスタンに関心を持つようになったきっかけは、地域通貨「未杜（みと）のメンバーから『せかいいちうつくしいぼくの村』の著者で、絵本作家の小林豊さんの講演があるよと教えてもらい聞きにいったことです。印象に残ったのは、「テレビ画面のアフガニスタンは岩の見える山や砂地の場面が多いですが、実際の現地には緑の地もあるのですよ。テレビ画面に出ないところにも意識を働かせてください」と話されたことでした。

その後、丹波の森公苑大ホールで

の講演会で小柄な中村哲さんにお目にかかり、何10年も現地活動が続けてこられた強さはどこから来るのか知りたいと思っていました。本書の幼い頃の思い出を読むとそこに答えがあったのです。小学校3年生のときに昆虫観察者になって盛んに野山を歩いたので鍛えられて元気になったとありました。

本書での実践内容はまさにSDGs（持続可能な開発目標）の先取りであり、お手本と言えます。現在から未来を考えるのではなく「未来のあるべき姿」から「未来を起点」に解決策を見つける方法です。

「現地30年の体験を通して言えることは、私たちが己の分限を知り、誠実である限り、天の恵と人の真心は信頼に足るということです。」という著者の言葉が心に残りました。

（333ナ）（青木）

■中村哲さんのことを後世に語り継ぐためアフガニスタンで出版された絵本です。←

カカ・ムラド ナカムラのおじさん

ガフワラ＝原作

さだ まさし＝ほか訳（双葉社）

（YA333・82カ）

◆10月12日：こんにちは市長室

「市民センター図書コーナーの運営」について要望書を提出しました。

ボランティアであるブックサポーターの現状を報告。特にコロナ禍において今後ますますブックサポーター制度の運営を維持するには難しい状況を説明し、制度発足10年の経過を機に以前の図書館運営に戻し、職員配置を要望しました。

●図書館は蔵書点検のため休館になります。

5月10日(月)～20日(木)

●中央図書館・図書コーナーに書籍除菌機が設置されました。

紫外線(UV-C)を使って書籍を除菌し、本に風をあてて、はさまったゴミや臭い(煙草臭・ペット臭など)を取る機械です。利用してみてください。

書籍除菌機の使い方



本をセットして
スタートボタン

におい ウイルス ゴミ



中央図書館の除菌機は
1回に6冊を30秒で、
図書コーナーの機械は
1回に3冊を60秒できれいにします！

市民センター図書コーナーが

図書館主体の運営になりました！

4月1日

平成21年4月より図書コーナーをボランティアで運営してきたブックサポーター制度が、令和3年4月1日より廃止され図書館運営となりました。

図書館職員2名が配置され、開館時間中にいつでも予約・リクエストの受付、レファレンス等の図書館サービスが受けられ、また祝日開館(日曜・祝日の開館は17時まで)など利便性が高まりました。図書コーナーは新刊本が少なく古い本が目立ちましたが、今後は徐々に改善し独自の行事にも取り組むということです。

ブックサポーター制度は熱心なブックサポーターに支えられてきました。発足当初、100人余りいたサポーターは高齢化に加え、昨年度はコロナ禍などの影響もあり36人に減り、サポーターへの負担が大きくなっていました。

今後は新たなボランティアの受け入れ制度を作っていくとのことです。

友の会は、新聞雑誌の配架、職員の滞在時間の延長など、図書コーナー改善の要望を少しずつ積み重ねてきました。図書館が地域社会と住民生活を支える情報拠点として発展していくことを願います。今後の図書コーナーの発展に期待しています。



談 話 室

●『仕事で大切なことはすべて尼崎の小さな本屋で学んだ』(川上徹也著/ポプラ社) 大手出版取次の新人営業ウーマンの成長物語ではあるが、「小林書店」の店主、小林由美子さんが語る書店にまつわるさまざまなエピソードが中心。まちの小さな書店はどこも経営難にあえぎ閉店が相次ぐ。「小林書店」にも、売れ筋の本がまわって来ないなど、様々な苦難が…。それを乗り越えていく、持ち前のパワーに圧倒される。書店の最寄り駅のJR立花駅は縁のある駅だが、今はコロナ禍で行けない。一度訪ねてみたい。

●何度か出版取次に書店や図書館と一緒に行ったことがある。一瞬にして書籍の海に放り込まれた感覚に包まれ、一日楽しませてもらったことを思い出す。

●コロナ禍で集会活動が減った。コロナの蔓延も地球温暖化など人間の勝手手のなせる業と考えて生活を見直そうと思う。が、なかなかだ。『ナチュラルおせんたく大全』などエコに関する本を図書館で借りた。この本は市民センター図書コーナーのボランティアのときに返却本のなかで見つけた。時々、返却本の中に面白そうな本を見つけたことがある。これを役得というのか？でもこの4月から12年続いたブックサポーター制度が終了となった。新生図書館に期待したい。

●コロナ禍で少しは本を読む機会は増えたかも。高価なので個人では到底買えない『宮崎駿とジブリ美術館』(スタジオジブリ編)も図書館にあるので見たい。3月から岩波ジュニアスタートブックスが刊行された。これも期待したい。図書館は止められない。(F)